

2 中京工業地帯の発展と名古屋大都市圏

○繊維工業から自動車工業へ

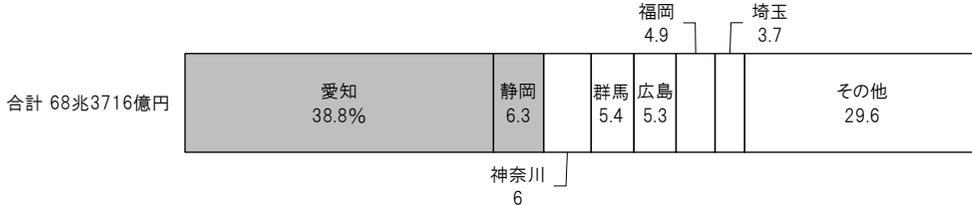
名古屋市の周辺地域：江戸時代の頃に繊維工業が盛んになる

→織物機械をつくる技術が発達し、その技術を土台に自動車の生産が始まる

→第二次世界大戦後、()が大きく発展

例) 豊田市(愛知県)：「自動車の町」として有名

<輸送機械工業の出荷額(2017)>



※輸送機械工業とは、自動車やオートバイを造る工業のこと

○日本最大の工業地帯

伊勢湾岸：製鉄所や石油化学コンビナートの工場が立地

→海外から鉄鉱石や石油を輸入し、鉄板やプラスチックを製造

→工場で作られた製品をもとに、自動車の部品が作られる

→完成した自動車は、世界各地へ運ばれる

名古屋市の周辺地域

→内陸部の自動車工業と臨海部の重化学工業が一体となり、()が発展

***)

→近年、ファインセラミック産業や航空宇宙産業などが注目される

例) 瀬戸市(愛知県)・多治見市(岐阜県)：ファインセラミック産業

濃尾平野を中心とした地域：航空宇宙産業

○結びつきを強める名古屋大都市圏

名古屋市：東海を中心都市

国の出張機関や大企業のオフィスが集まる

商業施設が集まる市街地の拡大

→鉄道や道路によって岐阜県や三重県と結びつき、()を形成

→東海道新幹線や東名・名神高速道路、中部国際空港などにより、様々な地域と結びつく